

本時のねらい

タブレットを使って、自分の好きなものを紹介することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

- ・いくつかの活動を組み合わせた自立活動の一部にタブレット端末を取り入れて学習する。
- ・聴覚情報への理解が難しい児童に対して、発表者に関心を持ちながら聞けるように、電子黒板を活用することで視覚的に理解できる環境を作る。
- ・ロイロノートで作成したテンプレートを活用して自己紹介文を作る。タブレットの操作で作文できるようにすることで、ディスレクシア傾向の児童への不安感を減らす。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット端末 (iPad)
- ・授業支援アプリ(ロイロノート)
- ・電子黒板

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○今日の予定 ・安心して学習に取り組めるように見通しを持つ。 ○日付・曜日の確認 ・カードを指さしながらゆっくりと読む。 ○給食メニュー ・伝える人、書く人に分かれて役割分担をする。 ○ボディーパーカッション ・リズムよく動き、心身をほぐす。 ○ビジュントレーニング ・対象物を集中して見る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムとタップ、動作がわかる動画を電子黒板に写して、音楽に合わせて動く。 ・ビジュントレーニング動画を電子黒板に写す。 授業で使用する動画はいつも同じものを使う。新しいことに対して抵抗感の強い児童にとって、回数を重ねることが、見通しを持ちやすい安心感につながる。
展開 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ○自己紹介 ・ロイロノートで作った自己紹介文を読み、自分のタブレットの画面をタップ操作して好きなものを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートで自己紹介文の定型文を提示する。穴埋め形式にすることで、何を書けば良いのかわかりやすくする。 ・Keynote を使った自己紹介づくりは、写真を添付したり、名前を書いたりするなど簡単な作業にしぼる。また、文字を書くことへの支援が必要な児童に対して、書いたものが動く(アニメーション化)スライドを作ること、書くことへの意欲につなげる。 ・提出箱に保存して一覧にし、教師用タブレットで個々の発表文を見せて発表させる。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○工作をする(クリスマス飾り) ・画用紙を切って長ぐつを作り、飾り付けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何を作ればよいか想像しにくい児童や、視覚優位の児童に、飾り付け例の工作写真を電子黒板に写す。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：動画を見ながらボディーパーカッションをしている場面



写真 2：Keynote を使って、好きなもののスライドを作成している場面



写真 3：ロイロノートに書いた文を読み、スライドを提示して自己紹介をしている場面

児童生徒の反応や変容

ロイロノートを使用した自己紹介文の作成時、自分で考えるところは穴埋め形式にしておく、文を書きやすくなった児童がいた。また、Keynote を使った自己紹介のスライド作成の中に、文字(絵)をアニメーション化するスライドを取り入れると、字が動く面白さで書くことへの抵抗感を減らす効果があった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

自己紹介文づくりは、Keynote に写真を添付し名前を入力するだけの簡単な作業に限定して、他の機会でも自分だけで作成できることをねらった。新しい取り組みを始めた、作業や活動をしたりするとき ICT を活用すると、より聴覚的支援や視覚的支援が可能になるので、支援を必要とする児童には効果的である。